

新春

介護対談

60代からの ペットとの 暮らし方。



伊藤比呂美さん
吉本由美子さん



家でも飼っていたの。
また犬と
一緒にいられるのが
うれしい。

特別養護
老人ホームで暮す
森 房子さん(92歳)と
ジロー。

入院施設への転居を機に、ペットを手放す高齢者が増加しています。また、自分にもしものことがあった場合のペットの行く末を心配して、ペットとの暮らしをあきらめるケースも少なくありません。死ぬまでペットと暮す方法はないのでしょうか。

詩人の伊藤比呂美さん(犬派)と、シニア世代のペット飼育をサポートしているNPO法人「ペットライフネット」の吉本由美子さん(猫派)が60代からのペットとの暮らしを語り合いました。

年齢を理由に ペットとの暮しを あきらめていませんか。

吉本 伊藤さんは、お父さんが熊本で一人暮らしをはって、カリフォルニアから遠距離介護されていたでしょう。2012年にお父さんが亡くなられて、ワンちゃんはどうされたんですか。

伊藤 父の飼っていた犬、ルイをどうするかは、父が亡くなるだいぶ前から考えていました。結局、カリフォルニアに連れて来るしかないだろう、と。

吉本 ルイちゃんは、いま？

伊藤 父が亡くなってから2年ぐらい生きて、一昨年の夏に死にました。父は甘やかし放題でまったくしつけをしていなかったんですが、うちに來たら私を飼い主と認めて、もともと飼っていたジャーマンシェパードのタケと、ルイと同じパピヨンのニコとの群れに入ることができました。

吉本 お父さんとルイちゃん的生活はどんなものだったんですか。著書「犬心」に、「夜中にルイが寄りかかってくる、その重みと温もりだけがたしかかなんだ」というお父さんの言葉を書いてはりましたけど。

伊藤 ルイとの生活は、父にとって最高でしたね。私や娘たちは「介護犬」

との間に線を引いて、そこから先に他人を入れませんでした。ルイのおかげでだんだんと関わるようになりま

した。ペットサロンの人たちやヘルパーさんに対して、心を開くようになって。ルイ自身は、マンションのなかで父と一緒に1日中座ったきりですから、犬としてはあまり幸せな生活じゃなかったと思うけれど。

吉本 散歩はどうしてはったんですか。

伊藤 介護保険だと、ヘルパーさんに犬の散歩はお願いできないんです。ただ、父の食事のときにルイがうるさく食べ物ねだるので「ルイちゃんを連れて行っている間に召し上がってください」と、ヘルパーさんが口実を作って連れ出してくれました。パピヨンだから短時間でも十分でしたが、大型犬は散歩も長時間必要だし、高齢者が飼うのは難しいだろうなと思いますね。

吉本 お年寄りに合う犬、合わない犬がありますよね。でも、動物の温もりって、何物にも代え難い。ペットフード協会の調査によれば、高齢者にとってのペットの効用は、「情緒が安定する

なくなつた」がともに42%です。

伊藤 前に何かで読んだんですが、アラシの形をしたロボットを、老人ホームの高齢者が撫でたりすると気持ち安定してくるって。まあ、それもいいかもしれないけれど、本物の犬や猫が膝に乗ると全然違うような気がするんです。

吉本 私は、ときどき老人ホームにアニマルセラピーのボランティアに行くんです。犬を連れて行って、お年寄りに抱っこしたり撫でたりしてもらったり、抱きしめて放そうとしない人がいたり、「昔、こんなん飼ってたなあ」って話出す人がいたりします。

伊藤 それは喜ばれるでしょうね。

吉本 表情がなかった人が、全然変わっちゃう。「僕がしてあげへんかったら、この子は何もできへんから」ってせつせとお世話をするんです。

伊藤 ルイはてんかんがあつたので、発作を起こすたびに父が心配する。それがあつた意味、よかつたと思いますね。

吉本 犬に頼られることが。

伊藤 シヤキツと、人間として立つって言うのかな。それと、ルイに自分のものを分け与えるという関係もよかつ

吉本由美子さん

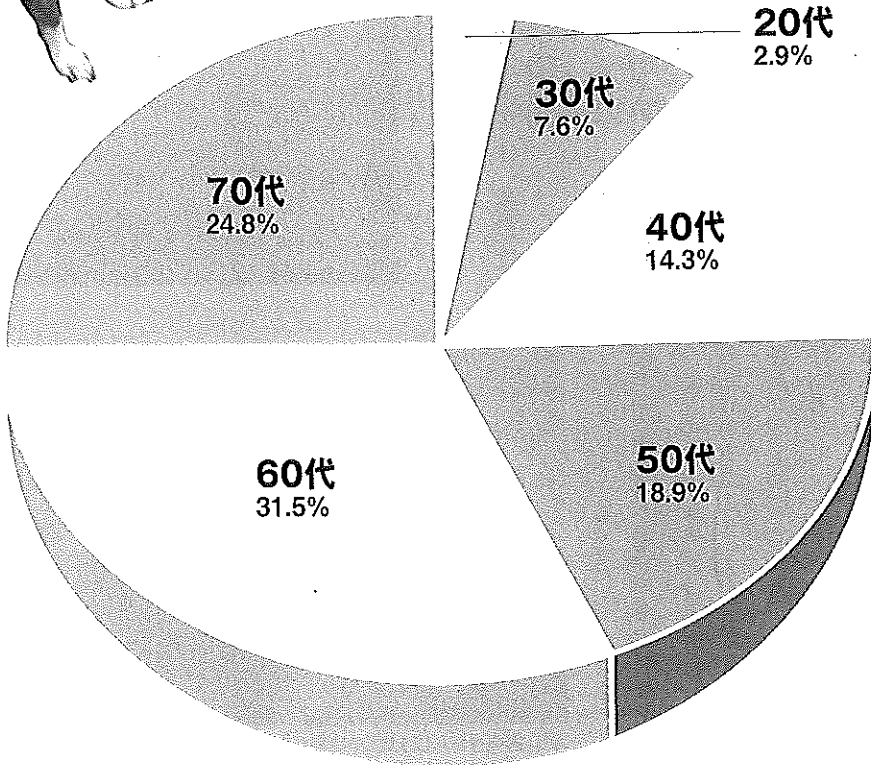
よしもとゆみこ
1947年、兵庫県生まれ。NPO法人ペットライフネット理事長。神戸大学文学部卒業。フリーのコピーライターを経て、セールスプロモーションや商品企画のプランナーに。14年、ペットライフネットを設立。





飼いきれないので引き取ってほしい

保健所や愛護団体に犬を持ち込んだ人の年齢は？



その理由は？

- 1 飼い主の死亡・病気・入院
- 2 犬の問題行動
- 3 飼い主の引っ越し
- 4 犬の病気・痴呆・高齢
- 5 仔犬が産れた



出典:「犬の飼育放棄問題に関する調査から考察した飼育放棄の背景と策」奥田順之(2013年動物臨床医学会)より

伊藤 吉本さんたちが属しているNPO「ペットライフネット」は、どんな活動をしているんですか。

吉本 主に3つあります。1つ目は飼い主の出会いと交流の場作り。2つ目はペットをきちんとした飼い方でつけさせようという啓発活動。3つ目が飼い主が死んだあと、別の一般家庭でペットを終生飼ってもらうための仕組み作り。具体的には、有償ボランティア

「自分亡きあと、残されたペットをどうする？」

伊藤 でも、獣医には「犬にラーメンは止めた方がいいですよ」って注意される。それで、父に言うところ「わかった、わかった」って答えるんですけど、ズブズブって始まるんですよ(笑)。

吉本 ラーメン！

伊藤 たみたいです。父はルイと暮している間、お昼は必ずラーメンだったんです。箸で麺をつまんで上から垂らすと、ルイが下からズブズブとすすります。

伊藤比呂美さん

いとう・ひろみ

1955年、東京都生まれ。詩人。青山学院大学文学部卒業。07年、「とげ抜き新巢鴨地蔵縁起」(講談社)で第15回萩原朔太郎賞受賞。「犬心」(文藝春秋)、「父の生きる」(光文社)など著書多数。現在は米国カリフォルニア州在住。



イアのネットワークをつくったり、信託会社を間に入れてペットにお金を残す「わんにゃお信託」の紹介です。

伊藤 どうして、そういうことをしようと思われたんでしょう。

吉本 何年か前に、体調をくずして2週間入院したんです。私は猫を3匹飼っているんですが、そのときは友だちが家に来てくれて、エサと水やり、トイレの処理をしてくれました。でも、病院で寝ていて「自分もシングルやし、年やから、ポチポチ考えないかな」と思ったのがきっかけです。

伊藤 じゃあ、ご自身ももし亡くなったら、猫はどこに行くっていうのを決めてありますか？

吉本 ある程度は。まだ信託はしてないんですけど、猫のエサ代ぐらいは用意して送り出すつもりでいます。

伊藤 実際に「わんにゃお信託」を利用している人はどれくらいいますか。

吉本 まだ2件です。60歳になったのを機に契約してくださった一人暮らしの女性と、病気が理由の50代の男性。どちらも猫と暮しています。

今、60代の方がもうペットを飼わないと言っているんですよ。

伊藤 別れるのがつらいから？ それとも自分が先に逝くから？

吉本 別れるのがつらいから。

伊藤 別れるのはつらいけど、それよ



澤田富興子さん(71歳)が自宅から連れてきた猫の祐介。「自分に何かあったとき、祐介がどうなるか心配だったけれど、いまは安心です」。

配で飼えない。また、ペットを遺棄するのは60代以上が過半数、というデータがあります(125頁グラフ参照)。

伊藤 実際問題として、高齢者が飼っている、先に人間が死んだら、どうなる犬猫が多いんですか。

吉本 以前は引き取り手がいない犬猫は、すべて保健所で殺処分でした。いまは動物愛護法が改正されて終生飼育が責務になりましたから、保健所がかったんには引き受けなくなっています。

伊藤 保健所が引き受けないんですか。

吉本 2020年に東京オリンピックがあるでしょう。海外の人がたくさん来たときに、日本は年間12万頭もの犬猫を税金で殺していると言われるたら恥ずかしいから、殺さんようなシステム

吉本 動物愛護団体が引き取って、里親を募集するんです。昨今はけっこう里親が集まるようになっています。愛護団体は里親探しを一生懸命する一方で、一人暮らしのお年寄りにはまずペットを譲ってあげません。本当は、一人暮らしのお年寄りがいちばんペットを必要としているんですけど。

伊藤 ダメですか。

吉本 また遺棄されたり、ええかげんな飼い方をされたりすると困るといふのがあるからですが、もうちょつと扉を開けてくれたらと思うんですけどね。日本もペットショップで買うことは、だんだん減ってきました。

伊藤 それはいいことですね。

吉本 ペットショップで生体販売しているのは、日本ぐらいいすからね。ブリーダーから直接か、愛護団体のシェルター(動物保護施設)から譲り受けるといふのが、欧米では普通でしょう。

伊藤 そうですね。娘が7歳のとき、ウサギがほしいというのでペットショップに行ったら、ケージは売っているけど、ウサギは売ってない。「ウサギはどうするんですか」と聞いたたら、「動物保護施設に行ってください」と。

吉本 ヨーロッパやアメリカは寄付文化が根付いてますから、シェルターも大きなところがいっぱいあります。オーストラリアもそうです。日本はまだ



「ロボットもいいけど、本物の犬や猫が膝に乗るのは全然違う」伊藤

「世間とのつながりがないと『多頭飼い崩壊』の問題も起きてきます」吉本



る。シエルターカどこにまゐるか、はつきり出してない動物愛護団体が多いですね。シエルターカの場合がわかったら、そこに捨てに来る人がいるから。

孤独の癒し方が、人間と犬猫とは違う。

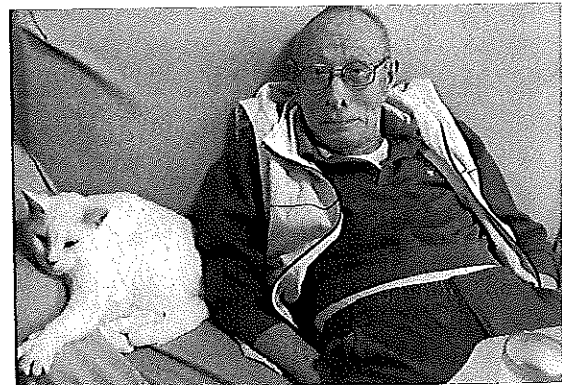
伊藤 タケが死んで、ルイが死んで、ニコ一匹になりました。いま、ニコを訓練してウサギ狩りさせているんです。夕方、いつも行く荒地地でウサギを見つけたら、「ゴー」って言うと、パーツと走っていく。ウサギは最初、走って逃げるんですが、突然止まって動かなくなっちゃうときがある。「私は石、私は石」って、自分に呪文をかける感じでかたまっている。

吉本 死んだふりをするみたいに。

伊藤 するとニコも、立ち止まってウサギを見ながら「石かもしれない、石かもしれない」って、呪文にかかっているように見えるんですよ(笑)。毎晩それを繰り返しているんですが、そのたびに犬とウサギは自然の中で調和した生を共有しているなっていうんです。日が沈みかけた薄暮の荒地野で、ウサギも犬も、コヨーテも、みんな調和しているなかで、私だけ共振せずに違うところにいる。人間の悲哀、寂しさ、そんなことを毎晩感じています。

吉本 それはすごいね。

伊藤 でも、自分の家にいるとき、犬と自分とは調和している。この感覚がまたいいんですよね。野生であるべ



川口一三さん(89歳)と千葉県にある動物愛護団体「ちばわん」が譲り受けた猫のかっちゃん、リビングでいつも一緒にくつろぐ仲。

きものが家の中にいて、私のことをボストと慕ってくれているというのが。

吉本 そういう意味では、人間って孤独やね。

伊藤 孤独の癒し方が人間と犬猫とは違うんですね。人間は人間という他者がいて、関わり合ってたがっている。その人間同士のすき間のようなところに、犬猫がすつと入って来るみたいな感じ。だから、人間と同じような関わりを求めても、彼らはしてくれないんです。それは父もさんざん言っていました。「ルイがいるけど、しゃべれないもん」と。

吉本 しゃべらないからいいんですよ。犬や猫がしゃべりだしたら、どないします？

伊藤 うるさいでしょうねえ(笑)。

吉本 やかましいし、ものすごいイケズ言われるかもしれない。

に思いましたね。頭のいい犬なんだけども、この子、自分が死んでいくとも考えてないな、と。

吉本 いましかない。

伊藤 父の介護とタケの介護はちょうど重なっていたんです。父は「若かったときはこうだった」とか、「死んでいくときはこんな感じで、来世はこうだ」というふうには、死に向かうビジョンがあるわけですね。それを全部言葉にできて、私と関われる。タケはそんなこと思ってもいないし、言葉もない。ウンコしたからって恥ずかしいとも思っていないですよ。悪いっていうのもない。

吉本 当たり前やもんね。

伊藤 14年間、毎日毎日ウンコ拾われてきたわけだからね。だけど、父には恥ずかしいっていう意識がある。その大きな違いを見せつけられて、犬が死ぬってことは、なんて潔いことかと思えました。死ぬことと生きていることがつながっている。父が感じているような死への恐れがない。これが本当の死ぬってことか、と思いましたね。

吉本 いやあ、死ぬときはそうありたいですね。

一人暮らしの高齢者はペットに依存しやすい。

吉本 お父さんはご自分の死を見つめてはったと思いますが、そこにルイちゃんがいることで、何か違ったんですか。

伊藤 死を見つめる上で、ルイは関わっていないような気がしました。毎日を紛らわせるという効果はあったと思いますけど。ただ、「俺が死んだらルイはどうなる」とすごく心配していましたね。「私が連れて行くよ」と言っても忘れて、またしばらくすると「俺が死んだらルイは……」と言いつつ。

吉本 心配することが生きがいでもあると思います。自分の存在価値がルイちゃんに投影されて、頑張らなくっちゃという気持ちになる。人間はそういうところに自分を持っていかないと生きられないんですけど、行き過ぎると依存の問題が出てきます。

伊藤 ペットに依存するということ？

吉本 一人暮らしのお年寄りには、ものすごく依存しはるケースが多いんです。

伊藤 悪いことじゃないんじゃない？

吉本 たとえば、本当は入院しなくちゃいけないのに「ペットが心配だから」と拒否していて、亡くなってから餓死した猫といっしょに発見されるというケースがありました。臭いや鳴き声のことで隣近所とトラブルになって、引きこもってしまう高齢者もいる。散歩の必要がない猫の場合は特に、世間とのつながりがなくなると「多頭飼い崩壊」という問題も起きています。

伊藤 多頭飼いで、手に負えなくなっちゃったという。

吉本 お金がなほとか、かわいそうと

匹ぐらい子どもを産みますから、気がついたら家中猫だらけで、共食いのようなことになったりするんです。金銭的に余裕がなくて、人とのつながりがなく寂しいと感じている人が起こしてしまうケースが多いです。

伊藤 解決方法はあるんですか。

吉本 私たちも、ちゃんとした飼育方針をセミナーを開いたりしているんですが、問題になってしまうような人たちまで届いていないのが現状です。ペットにまつわる間の部分ですね。

伊藤 闇の部分も、どんどん表に出していってほしいじゃないですか。猫を飼うんだつたら、とりあえず避妊・去勢はしなくちゃダメとか。避妊のお金がない人は、ここに連絡すれば安くしてくれるという情報を流すとか。

吉本 そういう活動をしている団体もありますけど、そういう情報さえ、届いてほしい人たちには届いていない。

伊藤 いますぐには無理でも、10年後の高齢者が「飼うなら避妊・去勢しなくちゃ」というのが常識になればいいですね。多頭飼い崩壊で見つかった猫はどうなるんですか。

吉本 多くは動物愛護団体が引き取ってまね。

犬や猫に、どれだけ与えられるか。

す。ペットを飼うということは、その老いを引き受けることでもありますよね。だから、飼い主はみんな一生懸命介護してはります。

伊藤 私は、なにがなんでも最後まで介護しなきゃいけないって思い込んでしまうのも、好きじゃないんです。犬猫には安楽死という方法もある。もし鳴いていたら、痛いか苦しいかなわけでしょう。だったら、それを終わらせてやる形もあるんじゃないか。アメリカ的な考え方もありませんけど。

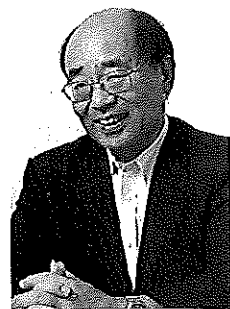
吉本 推し、月夜とより。



増田知恵子さん(84歳)は、猫のとのすけと夜も一緒に寝ている。この猫も「ちばわん」から譲り受けた。

日本で唯一、ペットと一緒に入居できる特別養護老人ホーム

徘徊していた人が落ち着いたり、無表情だった人が笑ったり、ペットとの同居は予想以上の効果があります。



特別養護老人ホーム「さくらの里 山科」
(神奈川県横須賀市)施設長

若山三千彦さん

「さくらの里 山科」は、2012年に開設された個室型の特別養護老人ホームです。4階建ての2階がペットと一緒に暮せるフロアで、犬用と猫用に部屋が分かれています。施設長の若山さんにお聞きしました。

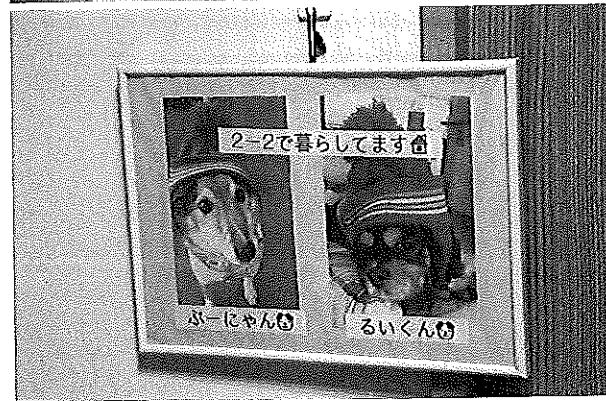
「施設に入るという理由で、ペットとの暮しをあきらめなくてもいいようにできればと思っただけです。いまは全部で犬が6匹、猫が10匹います。自分が犬猫を連れて入居した人は、エサ代と医療費を自費で払いますが、犬猫をお世話するスタッフの費用などはかかりません。もしも飼

い主が先に亡くなったとしても、ペットは終生ここで暮せる一方で、その際の費用はすべて施設の持ち出しとなります。

「セラピーが目的ではありませんが、ペットとの同居には予想以上の効果があります。昼夜が逆転して夜になると徘徊する認知症の人が、犬と一緒に寝ることで気持ちが落ち着いて生活リズムが整ったり、無表情だった人が笑うようになったりしています」

ペットを探して館内を移動したり、撫でるために手を動かしたりすることで、運動量が増えて体調がよくなったり、腕の拘縮が軽減したりした人もいます。

「介護職はどれも人手不足が深刻ですが、うちはペットフロアで働きたいという人が多く、順番待ちの状態です(笑)。ただ、問題は資金面。ペットフロアは犬猫の世話にも手がかかるため、他より多めに人員配置する必要があります。そこさえクリアできれば、いいことづくめなのですが」



上/入居者がくつろぐリビングで犬のんびり。下/犬フロアには「ちばわん」から引き取った「ぶーにゃん」と飼い主が亡くなって遺された「るい」がいる。

ります。タケが死ぬ前なんか、家中が本当にひどい臭いでした。あれを我慢できるいい加減さを、持っているかないかで随分違う。あの臭いの中で暮せない人も大勢いると思うし、それはその人たちの責任じゃありません。

吉本 でも、伊藤さんは安楽死という方法をとらなかった。

伊藤 いい加減さがあつたから。それに、老いてあちこち痛いという父を看ている私が、痛みもなにも訴えないタケを、老いてところ構わずウンコするというだけで安楽死させられるか、と思った。「なぜ安楽死させないの?」と言ってくる友人もいましたけどね。

吉本 でも、大きいワンちゃん介護って、すごく大変でしょ?

伊藤 大変でしたね。あれは年取つてからはできないだろうと思います。もう1回大きな犬を飼いたいんですが、いま60歳だから……。

吉本 飼いはった方がいいと思います。いましかないです。それか、仔犬じゃなくて成犬を飼うか。50代ぐらいから飼い始めるといいんですよ。子どもの手が離れて2人だけになったときに、ペットがいると会話も増えて。

伊藤 そうなんですすよー。そこに犬がいると全然違うの(笑)。犬や猫に、どれだけ与えられていることか。

吉本 動物がいると全然違います。生きものの力って、本当にすごいんです。

取材・文/佐々木とく子
撮影/大倉琢夫